

7月1日からメガソーラー発電所が 発電を開始しました



年間発電量は約268万kWh、

一般家庭740世帯分に相当

7月1日、再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタートし、ソフトバンク榛東ソーラーパークでの発電が開始されました。この発電所の用地は、平成16年12月まで榛名カントリークラブに賃貸していた村有地の一部を貸し付けたものです。ここに建設されたメガソーラー発電所には、240Wの太陽光パネルが10、122枚設置され、年間発電量は約268万kWhが見込まれており、これは一般家庭740世帯分に相当します。これらを東京電力に売電した価格のうち3%を、土地賃貸料として村に納めていただくことになり、年間約300万円程度が見込まれます。また、ソーラーパネル等に対する固定資産税は3年間免除され、平成28年から見込まれます(金額未定)。



発電量が確認できるパネル



天望遊歩道も整備されました

パネルの他に、変圧器とパワーコンディショナーが設置されており、パネルで発電した直流電力をパワーコンディショナーで交流電力に変換し、変圧器を通して供給します。

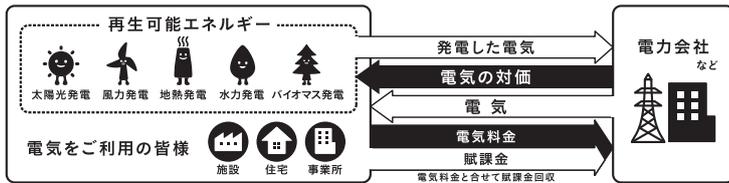


変圧器とパワーコンディショナー

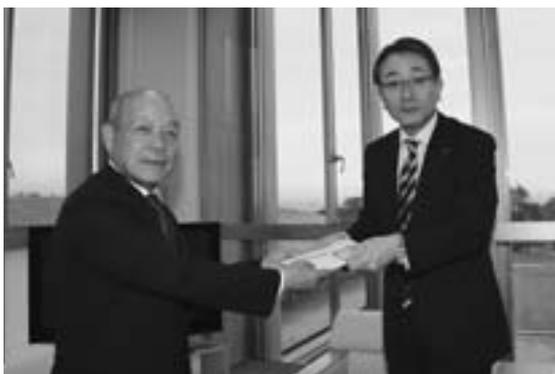
みんなで育てる 再生可能エネルギー

太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど自然の恵みを活かしたエネルギーを、「再生可能エネルギー」と呼びます。国の法令に基づき、「再生可能エネルギー」で発電した電気を電力会社が一定期間、一定価格で買い取り、その費用を電気の使用量に応じて電気をご利用の皆様にご負担いただく制度が「固定価格買取制度」です。この制度により再生可能エネルギーの普及を進めることは、資源の少ない日本にとって、とても大切なことです。本制度へのご理解をどうかお願い申し上げます。

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」のしくみ



固定価格買取制度にご理解ご協力を 経済産業省 資源エネルギー庁



地域住民・来訪者に対し、広く自然エネルギーに関する啓蒙活動を実施するため、シャープ株式会社ソーラーシステム事業本部長 向井和史氏より、タッチディスプレイ1台と液晶テレビ1台を寄贈していただきました。

発電開始後に始まった第1回村民見学会で、見学者からは、自然と共生している太陽光発電所のスケールの大きさと景観に感動し、村の新たなスポットの出現を喜ぶ声が聞かれました。

また、7月8日に開催された第2回村民見学会には、雨天にも関わらず400名を超える参加者があり、関心の高さがうかがえました。



報道関係者からの取材に答える阿久澤村長

7月1日には報道関係者も多数訪れ、取材を受けた阿久澤村長は、「榛東村の震災復興事業のひとつとして、メガソーラーの誘致を行った。村としては売電収入だけでなく、周辺の観光資源を有効に活用し、経済活動を活性化していきたい。」と意気込みを語りました。

7月1日の発電開始後、 村民見学会を開催しました



商工会女性部の皆さん

見学会に併せて、商工会女性部の方々による焼きまんじゅうや焼きとりなどの出店協力があり、たくさんの方が見学者で賑わいました。



7月8日見学会の様子